

## 問題行動と対応について ～Aさんの事例から～

伊藤康敦<sup>1)</sup> 須藤克明<sup>1)</sup> 生江和彦<sup>1)</sup>  
高井慎司<sup>1)</sup> 千代谷寿幸<sup>1)</sup>

1) 障害者総合福祉センターなつどまり 障害者支援施設 さつき寮

Key words ①施設入所 ②生活介護

### I. はじめに

平成18年10月1日より、障害者自立支援法の施行に伴い、新体系に基づいた多機能型事業所として、名称を「授産施設さつき寮」から「障害者支援施設さつき寮」に変更し、就労移行支援・生活介護・自立訓練・短期入所・施設入所支援事業、20年10月には就労継続支援B型を加え、現在各事業を実施している。

今回、この中でも、生活介護・施設入所支援事業を利用している、利用者Aさんの入所に至るまでの経緯と入所後の度重なる問題行動に、職員は、日々対応に苦慮してきたケースであり、この事について注目し、今日までの経過をまとめる事としたものである。

### II. プロフィール

氏名 Aさん(男性) 年齢 40歳 障害程度区分

#### 4 (生活介護事業・施設入所支援)

出生地 青森県南津軽郡出身

家族構成 父 無職 老人ホーム入居中 母 無職  
自宅にて生活

弟1 - 無職 入院中 弟2 - 土建会社勤務 (日雇い)

支援目標 生活における計画性をもつ

##### 1. 入所前の状況

小学校4～6年生までは、特殊学級に在籍し、地元中学校卒業後、父親とともに県外へ出稼ぎに行き、主に道路の舗装工事などを行っていた。

人の良いところがあり、だまされたりすることなどがあったようだ。

平成8年頃からは、弘前市内にある造園関係の仕事に従事していた。日雇いであったが、そこそこの収入が得られ、パチンコ等にお金を使ってしまう事や、移動にタクシーを利用し、代金を借りたり(金銭面に問題)、質屋に家財道具を持ち込み換金するなどあり、家庭において、父親との間で暴力沙汰となることが頻繁にあった。

平成11年8月に障害基礎年金の申請を行い、11月に支給決定された。

平成13年頃からは、仕事にはまったく就かなくなり、友達と共に、パチンコ等で両親から金銭を巻き上げるなど、その度に家庭内暴力などがあった。

また、救急車をタクシー代わりに使ったり、タクシー料金の未払い、病院代の滞納などにより、借金が膨らみ日常生活における問題が頻発し、役場からの勧めもあり、日常生活における正常化を目的にさつき寮へ入所したものである。

##### 2. 現在の状況(作業・生活)

入所後は、日常生活における正常化を目的に「生活介護事業」に所属し、身の回りの支援にあたる一方で、就労歴もあることから、本人の体調等を考慮しながら、日中は作業活動に参加させ、就労意欲の向上を図るとともに、肥満対策の一環としても取り組んでいる。

### Ⅲ. 現在までの問題行動について

さつき寮入所時から、今日まで様々な問題行動があった。主な問題行動としては、「無断外出・活動拒否・無計画(金銭)・非社会的行動」などが挙げられる。

これらの問題行動を、各表にまとめた。

##### 1. 目標達成の代償は大きい(無断外出)

1) 無賃乗車等による交通費請求は、平内町から自宅

までのタクシー移動に伴う乗車運賃は、一回につき14,000円から16,000円程となる。

2) 自宅に戻れば、母から遊興費として一度に10,000円から20,000円を取り上げる。

3) お金がなく、移動手段として救急車を要請し病院へ搬送され、特に処置される事もなく、処置室のベットに数時間寝ているだけで医療費を請求されたなど、在宅時から作った借金は、現在、年金収入から計画返済するものの、一度の無断外出により数万円の借金を増やす結果となった。

##### 2. 職員の対応

1) 本人との対話を大切にし、現状と理解を求める支援

2) 余暇時間の過ごし方への支援

3) 日中活動参加への支援

4) 目標を持った支援

これらの事について、本人に対し支援を行ってきた。

### Ⅳ. 対応の結果

1) 本人と職員間で対話を多く持つ事により信頼関係を築き、本人の思いを誰に対しても伝えられるようになってきた。

2) 日中活動において、積極的に施設外での活動に出かけて行く事により気分転換を図ったり、本人の要望を可能なかぎり受け入れた事により安定が図られた。

3) 週末の過ごし方が課題となっていたが、施設外の行事や製品販売等に出かけて行く事により安定を図ってきた。

4) 目標を持たせることにより、意欲的になってきた。また、場面に応じて、本人が必要であると伝え、本人に自信を持たせることにより責任感を持てるようになってきた。少しずつではあるが、成長が見られてきている。

### Ⅴ. まとめ

このケースは、これまで39年間地域社会において生活を送ってきた中で、独自の生活力を身に付け、社会的ルールやマナーの欠如したある意味において望ましくないパーソナリティが形成されてきた。しかし、すべてを否定する訳でなく、社会的に適應できる術を身に付けた良い面と共に欲求を抑制できない面もあり、これらのことを一度に改善することはかなり困難であることと考えている。

前途遼遠ではあるが、支援において身近な部分から職員が介在するなど、方向性を修正していく取り組みを行っていかねばならないと思われる。